



沖縄県退職教職員会

会長 仲村勝彦

〒900-0015

那覇市久茂地3-9-23

教育会館内

☎ (098) 867-0161 (代)

FAX 098-863-2026

名護市長選勝利をバネに

ウチナーンチュの尊厳を守って

明けましておめでとうござ
います。新しい年が会員の皆
さんやご家族の皆さんにとつ
て良い年になりますよう心か
らお祈りいたします。

昨年ほど、日本政府による
沖縄県民の基本的な人権無視・
自治権無視・平和的生存権無
視のあからさまな攻撃がひど
かった年はなかったと言える
でしょう。

八重山教科書問題では、文
科省が県教育委員会に対し竹

謹賀新年

富町教委へ是正命令を出すよ
う要求してきました。法律違
反のない竹富町教委に対し是
正要求を強要してくる文科省
の狙いは、政府、文科省の意
に従わない地教委は何が何で
も潰してしまおうとの意図が
あると言わざるをえません。
まさに、権力の乱用です。

圧倒的多くの県民がオスプ
レイ配備撤回・追加配備反対
の声をあげている中、政府は
県民の声を一顧だにせず12
機を追加配備し、県や市町村
での目視調査では何百件もの
飛行ルール違反が指摘されて
いるにもかかわらず、「ルール
違反は見られなかった」と

ぬけぬけと言い放っています。

政府、自民党は、沖縄選出
自民党国会議員や県連を恫喝
して公約撤回の裏切りを主導
し、仲井真知事を東京の病院
に監禁状態におき「埋め立て」
を承認させるなど常識では全
く考えられない悪辣で民主主
義を否定する暴挙に出ました。

名護市長選挙でも金をちら
つかせ名護市民、県民を騙し
ながらあからさまな国による
選挙介入をしてきました。名
護市民・沖縄県民はこの策動
を許さず、自民党候補に大差
をつけて稲嶺進氏を再選させ
ました。しかし、政府は名護
市長選挙の結果を完全に無視
し辺野古への新基地建設を強
行しようとしています。

名護市長選挙の勝利をバネ
に、政府による県民差別、傍
若無人の行為を許さず、ウチ
ナーンチュの尊厳と誇りを守
る闘いをしていきましょう。

市長選挙 稲嶺氏の当選が取り取る

交付金に頼らない

街づくりに評価

去る1月19日に投票された名護市長選挙では、「海にも陸にも新しい基地は造らせない」、「全ては子ども達の未来のために」等の公約を掲げた稲嶺進氏が、辺野古への新基地建設推進派の自民党候補に4155票の大差をつけて勝利しました。

政府、自民党の圧力に屈し、いとも簡単に「県外移設」の公約を投げ捨て、県民を裏切った県出身自民党国会議員や県連、仲井真県知事とは違い、一貫して辺野古への新基地建設に反対するとの公約を守り続け、安倍政権とも堂々と対峙している稲嶺氏への市民・県民の高い評価が示された選挙結果だと言えます。

また、4年前の初当選以来、「交付金に頼らない街づくり」、「市民目線の政治」に取り組み、予算や教育をはじめあらゆる分野で前市政を上回る素晴らしい実績を積み上げてきた稲嶺氏の政治手腕をも市民が高く評価した結果でした。



結成総会で挨拶をする稲嶺氏(右)と
ガンバロー三唱する参加者

危機感をもって

取り組む

本会は昨年7月の定期総会で「名護市長選挙勝利」の方針を決定し、11月の第3回理事会で「各支部からの動員」と「任意カンパの取り組み」を確認し、12月初めには全会員に「名護市長選挙に関する訴え」を送付しました。1月28日に、152人が参加して大西公民館でもたれた「稲嶺ススムを支持する退職教職員の会」結成総会には役員をはじめ各支部からも十数人が参加し、事務局長が激励・連帯の挨拶をし、名護市長選挙の勝利を誓い合い、12月に入って稲嶺進氏の「推薦状」を手交しました。

自民党国会議員・県連の公約撤回の裏切りに対する怒りが渦巻く中、本会は、名護市

名護 辺野古新基地にNO

長選挙は辺野古新基地建設阻止の「最後の砦」との強い危機感をもち、11日から各支部からの動員をスタートさせました。年末年始休を除き、週に5〜6回のペースで中頭・那覇・島尻・私学支部から名護に足を運び、国頭支部と連携をとりながら運動を展開しました。時には高退教や大阪退教の会員とも行動を共にしました。行動日数は20日間、参加者数は延べ365人でした。各支部からの参加状況は下記の通りです。

稲嶺氏が大勝



稲嶺氏の当選を報じる県内紙

行動日数20日
参加者延べ365人

日	人数	日	人数
12/11(水)	4人	12/28(土)	14人
12/14(土)	21人	1/6(月)	20人
12/16(月)	19人	1/9(木)	17人
12/18(水)	10人	1/10(金)	15人
12/20(金)	6人	1/11(土)	19人
12/21(土)	18人	1/12(日)	18人
12/23(月)	13人	1/13(月)	39人
12/24(火)	5人	1/16(木)	47人
12/25(水)	9人	1/17(金)	19人
12/27(金)	9人	1/18(土)	43人

の市長選挙では、「沖繩問題は沖繩だけの問題ではない」と位置付けている日退教の16単会から激励電やFAXが本

今回

会に寄せられました。

政府、自民党は、国会議員・県連・仲井真知事の「県外移設」の公約を、恫喝等の民主主義をも否定する悪辣な手法で、「ドミノ式に相次いで撤回させ、名護市長選挙の勝利によって辺野古の新基地建設を確固たるものにしよ」とのシナリオを描いていたはずですが、「金で心は売らない」、「一子や孫の世代まで負の遺産は残さない」との名護市民、沖繩県民の魂によって見事に打ち砕かれました。

しかし、政府、自民党は選挙結果を完全に無視し、新基地建設を強引に推し進めてくるであります。

稲嶺市長を支え、辺野古への新基地建設を許さない闘いを会員一丸となって取り組んでいきましょう。



雨の中での連帯行動

日退教第4次沖繩交流団

野嵩ゲートで連帯行動

今回も雨の中

日退教の第4次沖繩交流団21人が、昨年の11月24日来沖し25日までの2日間、沖繩側との交流を深めあいました。前回までは3日間の交流でしたが今回は1日短縮しての交流でした。1日目の開

会行事では団長あいさつに引

き続き、日退教が取り組んだ沖繩連帯カンパ金60万円が沖繩側に手渡されました。その後の追加分を合わせると計80万円の連帯カンパとなります。全国の日退教単会の皆さんに感謝を申し上げます。

開会行事に続く合同学習会では、前宜野湾市長の伊波洋一氏による「沖繩の現状」についての講演があり、日退教からの21人と沖繩側からの22人と合わせて43人が参加しました。

2日目は基地巡りのフィールドワークで、総合的なガイドは高退教会長の喜友名稔さんが担当しました。午前9時

に教育福祉会館を出発し新都心、キャンピングザーから嘉数高台へと向かい、高台では沖退教会員の石川元平氏にガイドをしてもらいました。その後沖国大前を通過し野嵩ゲートへと進み、ゲート前では下車をして強めの雨が降り続く中、市民連絡会のメンバーと共に連帯行動をしました。午後は嘉手納基地を後にし、キャンプシユワーブでは宜野座村議の仲間氏のガイドを受け、辺野古へと向かいテント小屋前でミニ集会をもち日退教からのカンパも手交されました。

午後6時から沖教組会館で交流親睦会をもち、島尻支部女性部による琉球舞踊も鑑賞しながら、2日間の交流に参加しての感想等を思い思いに語り合いました。

！金曜行動継続中！

オスプレイ配備に抗議し、撤回を求めての平和運動センターを中心とする野嵩ゲート前金曜日行動は、1昨年の10月以来1年3カ月となりませんが、現在も継続中です。午後6時からの集会となっております。可能な限り各支部からも参加し、諦めることなく粘り強い闘いをしていきましょう。

女性部 新春の集い

日時：2月3日(月)
 受付：11:30～
 開始：12:00～14:30
 場所：教育福祉会館 3F
 電話：098-885-9621
 会費：1000円